

前回の振り返り（各委員から出た意見）

（1）中野区子ども総合計画令和6年度実績の評価・検証

- 実態調査の自由意見なども踏まえた今後の課題や改善点等が示されるとよい。
- 子どもの最善の利益の視点の評価について、大人の見立てではなく、子どもに意見を聴き、どれだけ効果があったかを評価してほしい。
- この計画の自己評価は、各課が子どもの権利の視点を踏まえて事業を推進していくこと、評価の観点になっていることを周知していく重要な機会である。

（2）令和6年度中野区子どもの権利救済委員（子どもオンブズマン）活動報告

- 子どもから受けた相談について、子どもの意思を尊重した対応をしているなど、活動の具体的なイメージが湧いた。
- 普及啓発活動の中で様々な団体へ話をしてもらうことで、子どもたちに寄り添って活動していること、大人も相談できるというところを知ることができ、心強いと感じた。
- 居場所に出向いてのアウトリーチ活動を丁寧に行っていること、それにより中野区の居場所の機能が豊かになっていると感じた。答申に向けて中野区の子どもの居場所を考えていく中で、大事な視点になる。

（3）子どもの居場所に関する審議

- 答申をまとめていくにあたっては、すでにある居場所をどう改善していくべきかと、新しい居場所をつくるにあたって必要なことの2つの視点が必要である。
- 答申に取り上げたい居場所について（夏休みの子どもの居場所、児童館・キッズプラザ、子どもをメインの対象としていない施設（区民活動センターなど）、気になる場所そのものに行くのではなく、例えば今までの議論で出ている「文楽舎」のような民間の居場所に行き、意見を聴くのもよいのではないか。
- 中高生の居場所について、中高生特有の居場所のなさや、なんとなくいられる場所、自習ができる場所等の必要性を委員会でも話してきたが、実態調査の結

果からもそういったニーズが見える。答申はこういった声を踏まえていく必要がある。

- 公園について、実態調査の自由意見を地域別に分析するなどするとよいのではないか。
- 実態調査などのアンケートでは声を拾いにくい子どもの声を聴いていく必要がある（不登校の子ども、外国にルーツのある子ども、障害のある子ども、就学前や児童養護施設の子どものなど）。
- 大人の居場所（気軽に相談できる居場所など）についての視点もあるとよい。